

2.7_3

(3) インターンシップ

2017 年度も昨年度に引き続き、工学部の全学科でインターンシップが実施された。希望者数と派遣者数を表1に示す。合計欄の括弧書きの数値は、参考のために 2016 年度の希望者数と派遣者数を示したものである。企業が募集した数が増えたため、今年度の希望者数は昨年度と比較して大きく増加している。

表2は、各学科が授業科目として単位認定しているインターンシップ科目の一覧である。インターンシップに参加し、各学科で定めた条件を満たした学生には、これらの科目の単位が認定される。

最後に、表3にインターンシップ特別講演の実施状況を示す。各系学科では、インターンシップの前後に民間企業から講師を招き、表3に示すような講演会を実施している。インターンシップの評価方法としては、レポート提出や実施報告書提出及び業務日誌等で行っている。

学生がインターンシップに参加する場合、各学科の担当教員が企業等へ実習の申込みを行い、学生はそれらの中から自分の希望によって企業等を選択する場合と、企業や学協会等が準備した公募型のインターンシップへ、インターネットなどを通じて学生が自主的に応募する方式の2つがある。企業や学協会は、将来の就職の際のミスマッチや学生の注目を高めるために、後者の公募型のインターンシップが増加傾向にある。しかし後者の公募型では必ずしも採用されるとは限らないので、派遣数を増やすには工学部として、受け入れ先に独自に対応するようなこともより積極的に行うことが必要であると考えられる。

一部の学科では例年2年生にもインターンシップ報告会を聴講させ、そこでインターンシップに参加した学生から、自己の職業適性や人間関係について考える絶好の機会であり、将来の職業選択について高い視点が養成されるということを開くことで、次年度インターンシップに積極的に参加する意識を高める工夫を行っている。さらに有意義な体験を送るためには、事前学習が重要であり、貴重な時間からどれだけのものが得られるのか知っておく必要がある。個々の学生に個別指導しているところや一斉に講義をおこなっているところがある。これは熊本大学工学部の評判や信頼を損なわないためにも考慮すべきところである。

2017 年度は特に1Day や Short のインターンシップの募集が増加した。リクルート目的のもので、単位を与えるだけの十分な内容を有しないものもあるので、応募する際、日数と内容に対してチェックさせる必要がある。

内容の議論についてはインターンシップ科目を各学科でどのように位置づけているかも関係するので、一律ではなく、学生の学習目標達成度を考慮し適切な基準を決める必要がある。

表1 2017 年度 工学部インターンシップ実績表 ()は2016 年度の数

学 科 名	希望者数	派遣者数
物質生命化学科	18(16)	18(16)
マテリアル工学科	3(11)	2(11)
機械システム工学科	14(1)	14(1)
社会環境工学科	74(57)	66(57)
建築学科	31(16)	31(16)
情報電気電子工学科	6(16)	6(16)
数理工学科	0(1)	0(1)
合 計	146(118)	138(118)

表 2 2017 年度 各系学科のインターンシップの授業科目

学 科 名	授業科目名	必修・選択 科目	単 位 数
物質生命化学科	化学学外実習	選択	2
マテリアル工学科	マテリアル工学応用セミナー	選択	2
機械システム工学科	機械システム応用セミナー	選択	2
社会環境工学科	インターンシップ	選択	1
建築学科	インターンシップ	選択	2
情報電気電子工学科	インターンシップ第一	選択	1
	インターンシップ第二	選択	1
	情報と職業	選択	2
数理工学科	インターンシップ	選択	2

表 3 2017 年度 工学部インターンシップ特別講演実施状況

学 科 名	講 師 名	会 社 名
マテリアル工学科	小川 友以	NTT
社会環境工学科	三家本 史郎	国際航業(株)